



理数研企画

「R6高尾山 植生観察研修」

10月1日(火)都民の日に高尾山で植生観察に行ってきました。本校生徒21名と、卒業生の丸山君、そして講師として、ささりんどう植生調査室の八木正徳先生をお迎えして、「樹木を観察する視点」や「高尾山のバイオームの話」、「三宅島の植生との違い」について講義をして頂きながら登山をしてきました。

研修のねらい

- ・樹木の名前を10個は覚えよう。(仲良くなるには名前を知ることから)
- ・東京(高尾山)のバイオームを観察する。
- ・来月に行く、三宅島の植生と比較をするために、内地の植生を知る。

9:00 高尾山口集合



1号路の斜面には「シャガ」が沢山植えられている。なぜ、高尾の斜面一面にシャガを植えたのだろうか。



「シャガ」中国原産
アヤメ科アヤメ属
開花期は4-5月頃。3倍体のため種子は作れない。したがって自生できないので全て人によって植えられたものである。



講師の八木先生にちなんで、八本の木を中心に樹木の紹介をして下さいました。

「杉、檜、栢、椿、樅、楓、樅、櫟」
皆さんは、この8本の樹木の名前を読めますか。すべて、高尾山に自生しているんですよ。

檜(なら) 枯れも深刻



日本全国で猛威を振るう[カシノナガキクイムシ]。高尾山でも、コナラをはじめカシやカシワの木に付き、檜枯れを引き起こしています。山道のいたるところで目かけました。枯れ木の倒木には十分に注意が必要です。

ツチアケビ(ラン科ツチアケビ族)



珍しい植物を発見！！

ツチアケビは植物でありながら光合成を行う葉を持たず、養分のすべてを共生菌に依存している菌従属栄養植物。ナラタケとラン菌根を形成し、栄養的に寄生しています。環境庁のレッドリストでは絶滅危惧IA類(CR)です。

休憩タイム！ 山で食べる団子は格別。



教科書では、高尾山のバイオームは照葉樹林と習います。実際に高尾山に入ると、確かに照葉樹が多く自生しています。しかしよく観察すると、東北地方にいたような夏緑樹のブナが自生していたり、熱帯原産のヤシ科のシュロも見つけることができます。教科書を基準として捉え、なぜここにはブナが自生しているのか、なぜシュロが生育できているのか。新たな疑問が生まれてくれば、より深い学びになりそうですね。文責：尾方